

令和3年度

自己評価報告書の概要

令和4年8月4日

武蔵野栄養専門学校

令和 4 年 8 月 4 日

令和 3 年度 学校関係者評価報告書

学校法人後藤学園

武蔵野栄養専門学校

学校関係者評価委員会

学校法人後藤学園武蔵野栄養専門学校「学校関係者評価委員会」は、令和 3 年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告致します。

1. 学校関係者評価委員（「武蔵野栄養専門学校 学校評価要綱」による選出）

- ・学校の専門分野における業界関係者（同第 5 条第 2 項第 1 号）

益子 純子 氏 株式会社 藤江 代表取締役

- ・卒業生（同第 5 条第 2 項第 2 号）

藤澤 弘之 氏 東都給食 株式会社 代表取締役社長

- ・卒業生（同第 5 条第 2 項第 2 号）

飯島 敬子 氏 本校卒業生

- ・高等学校校長、進路指導担当者等（同第 5 条第 2 項第 3 号）

関山 勝之 氏 東京都立 葛西南高等学校 校長

基準1 教育理念・目的・育成人材像

【自己評価結果】

	評価項目	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
1-1-1	理念・目的・育成人材像は、定められているか	④	3	2	1
1-1-2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	④	3	2	1
1-1-3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	④	3	2	1
1-1-4	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	③	2	1

学校関係者評価委員会からのご意見等

概ね良い。

改善策

- ・教職員の学園理念や学校目標に対する認識度は高いが、学生の認識度は、学生ハンドブックやパンフレット等にも記載されているが、十分とはいえない。入学後のオリエンテーションやショートホームルームの活用等、周知の方法を検討し伝達していく。
- ・学校の将来構想について周知を図るため、ホームページの充実や保護者への伝達方法などについても検討していく必要がある。

基準 2 学校運営

【自己評価結果】

	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
2-2-1	理念に沿った運営方針を定めているか	4	③	2	1
2-3-1	理念等を達成するための事業計画を定めているか	④	3	2	1
2-4-1	設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	③	2	1
2-4-2	学校運営のための組織を整備しているか	④	3	2	1
2-5-1	人事・給与に関する制度を整備しているか	4	③	2	1
2-6-1	意思決定システムを整備しているか	4	③	2	1
2-7-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	4	③	2	1

学校関係者評価委員会からのご意見等

運営方針・事業計画が適切であるので、これを継続していくことが重要である。また、「ほぼ適切」については改善の余地があるということなので、教職員で把握・共有をして改善に繋げていただきたい。若手職員で構成されているプロジェクトチームの取り組みについてはぜひ進めていただきたい。

改善策

- 令和3年度は令和4年度より実施される経営改善計画について検討するためのプロジェクトチームが発足された。学園全体での将来を見据えた改善計画を立案する等、対策を行っている。
- 学内において、若手の教職員により将来構想委員会を組織化している。学校関係者評価委員会からも好意的評価をいただいた為、継続していく必要がある。委員会では、学校の未来を考え教育の充実や学生募集に繋がる内容の検討・実施を行っていく。

基準3 教育活動

【自己評価結果】

	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
3-8-1	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	④	3	2	1
3-8-2	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4	③	2	1
3-9-1	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	③	2	1
3-9-2	教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	③	2	1
3-9-3	キャリア教育を実施しているか	4	③	2	1
3-9-4	授業評価を実施しているか	4	③	2	1
3-10-1	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	③	2	1
3-10-2	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4	③	2	1
3-11-1	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	④	3	2	1
3-11-2	資格・免許取得の指導体制はあるか	4	③	2	1
3-12-1	資格・要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
3-12-2	教員の資質向上への取組を行っているか	4	③	2	1
3-12-3	教員の組織体制を整備しているか	4	③	2	1

学校関係者評価委員会からのご意見等

コロナ禍において活動が制限される中、コンテスト等で実績を残すのは素晴らしい。授業構成も学生のことを考え工夫されている。プレゼンテーションやディスカッションについては高等学校でも取り入れられているので、是非継続していただきたい。

改善策

- 令和3年度は、「チャイム授業開始」「授業構成の改善・工夫」「授業参観・授業評価の実施とフィードバック」等を実施し、多様化する栄養士のニーズに応える授業展開を行った。「授業構成の改善や工夫」においては、学校関係者評価委員会からも良い評価を受けた。しかし、令和3年度においてもコロナ禍による影響で、全ての授業においてグループワークなどコミュニケーション能力の向上を目指した内容の実施は困難であった。令和4年度は、状況を把握しながら、できるだけ学生が主体的に授業に取り組めるよう努めたい。また、コロナ禍においてオンライン授業の対応等、教育を止めない方法を構築するなどの対策を行う必要がある。
- コロナ禍において、スポーツ栄養実習の目的・目標に沿った授業計画の作成と実施のために必要な機器・器具類の検討及び購入は見送られた。また、企業と連携した授業内容の実施は選択コースではスポーツ栄養実習のみであった。魅力ある授業内容を展開する為にも次年度に向け調整していく。
- コロナ禍においても学生が主体的に授業に取り組めるよう支援する必要がある。学内では、感染対策を十分行っただうえで活動していく。

基準 4 学修成果

【自己評価結果】

	評価項目	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
4-13-1	就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
4-14-1	資格・免許取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
4-15-1	卒業生の社会的評価を把握しているか	4	③	2	1

学校関係者評価委員からのご意見等

栄養士実力認定試験の結果について、具体的な数値目標を設定して取り組むことも必要ではないか。

卒業生の社会的評価に関しては、これまでも多くの卒業生を受け入れているが、武蔵野栄養専門学校はよく教育されている印象である。今後も、社会的評価をしてもらえるよう、取り組みを継続していただきたい。

改善策

- ・栄養士実力認定試験は、栄養士としての資質の向上にも繋がる。認定 A 取得率は、全国平均より上回ったが、今後も授業内容や対策講座の充実、学力不足の学生に対する補講や自己学習が可能な環境作り等の対策を強化していく。
- ・今後、卒業生の就職先等の現状把握について Googleclassroom を利用して行っていく為、卒業生への周知が求められる。令和 3 年度は、実施できなかったが、学園祭が行われた際には、来校した卒業生からの情報収集やホームページへの掲載を通じて、現状把握に努める。

基準 5 学生支援

【自己評価結果】

	評価項目	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
5-16-1	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	④	3	2	1
5-17-1	退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
5-18-1	学生相談に関する体制を整備しているか	4	③	2	1
5-18-2	留学生に対する相談体制を整備しているか	4	3	②	1
5-19-1	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	3	②	1
5-19-2	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	③	2	1
5-19-3	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4	③	2	1
5-19-4	課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	3	②	1
5-20-1	保護者との連携体制を構築しているか	4	③	2	1
5-21-1	卒業生への支援体制を整備しているか	4	③	2	1
5-21-2	産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	4	3	②	1
5-21-3	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4	③	2	1

学校関係者評価委員会からのご意見等

高等学校や会社でも精神的に不安定でフォローが必要な生徒・社員が増加してきているのが現状である。栄養専門学校ではカウンセラーなど外部の専門機関と連携しながらよく対応していただいている。担任の負担は大きく、苦労は多いと思うが、今後も継続していただきたい。

退学率や奨学金の受給率で厳しい数字が出ているが、よく支援していただいている。今後も努力していただきたい。

改善策

- 令和3年度は「健康上の理由」により退学した者が多く、その中には、精神的な面での理由が含まれている。退学の兆候を早期に発見し、対応する為に組織的な取り組みが必要である。今まで以上に、担任やスクールカウンセラーへの相談等を通じ退学の予防を図っていく。また、メンタルヘルス推進責任者を中心とし、定期的に教職員のメンタルヘルス研修が実施されており、これに参加することで各教職員のスキルアップを図っている。今後も積極的な参加を促していく。
- 奨学金貸与については、法人事務局総務部奨学金担当者とは連携・共通理解の下、学生への支援を行い、経済的な理由での退学者を減らすべく努力していく。

基準 6 教育環境

【自己評価結果】

	評価項目	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
6-22-1	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	③	2	1
6-23-1	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	③	2	1
6-24-1	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	③	2	1
6-24-2	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4	③	2	1

学校関係者評価委員からのご意見等

施設の老朽化対策や設備の入れ替えには予算が必要である。最新の機器備品を取り入れて授業をしていたら、卒業後現場に出た時に役立つので、事業計画に加え計画的に対応していただきたい。

コロナ禍であるが、校外実習を実施できた学生がいることについて、受け入れていただいた企業と学校の努力であると評価ができる。校外実習は就職後の経験を社会人になる前に経験できる良い機会である。今もなおコロナ禍ではあるが、是非全員が参加できるよう、環境を整えていただきたい。

改善策

- ・施設設備においては、必要性に応じ優先順位を付けて修繕を進めていく。また、今後予定されている耐震化工事に伴い実習室等の設備の改善やレイアウト変更も計画している。
- ・令和3年度の校外実習は、コロナ禍により学外での実施は一部の学生のみ、その他については学内代替実習での実施を余儀なくされたが、令和4年度は、全員が実施する予定である。コロナウイルス感染者数の増加等、現在も厳しい状況ではあるが、コロナ禍以前の状況に早く戻れるよう企業の協力を得ながら努力していく。

基準 7 学生の募集と受入れ

【自己評価結果】

	評価項目	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
7-25-1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	③	2	1
7-25-2	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	④	3	2	1
7-26-1	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	③	2	1
7-26-2	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	③	2	1
7-27-1	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	③	2	1
7-27-2	入学辞退者に対し授業料等について適正な取り扱いを行っているか	④	3	2	1

学校関係者評価委員会からのご意見等

適切に取り組んでいる。新型コロナウイルス特別減免制度やリスタート制度など、可能な限りの継続をお願いしたい。

改善策

- ・令和 5 年度の入学希望者を対象として、「武蔵野学費サポート制度」、「リスタート支援制度」、「後藤学園同窓生推薦制度」などの減免制度を継続し、入学希望者を支援していく。入学希望者および保護者が求める教育活動・就職実績・支援体制等の情報を提供していくことが他校との差別化に繋がる。全教職員と広報部栄養担当職員により、今まで以上に連携を図り、学生募集活動に力を入れる。

基準 8 財務

【自己評価結果】

	評価項目	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
8-28-1	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	3	②	1
8-28-2	学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	③	2	1
8-29-1	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	③	2	1
8-29-2	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	④	3	2	1
8-30-1	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施しているか	④	3	2	1
8-31-1	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	③	2	1

学校関係者評価委員会からのご意見等

定員充足率が満たされていないことが問題である。日本全体の人口が減少している、学生の進路選択の幅が広がってきている点が原因として考えられるが、そのような状況でも、学生が魅力を感じる、選んでもらえる専門学校でなくてはならない。その中で財務状況というのはとても重要な部分であると考え。財務状況については学園全体での評価となっているが、こちらの報告書は「武蔵野栄養専門学校」の報告書である為、その旨を表記しても良いのではないかと。

また、今後は中学校卒業生が増加してきている時期に該当する。老舗の栄養専門学校として、確固とした基盤を持ちながら、対策を立てていただきたい。

改善策

- ・18歳人口の減少、経済情勢の悪化等、厳しい状況である。学園全体として令和3年度は経営改善計画委員会を設置し、プロジェクトに分かれて経営策定の取り組みを行った。また、経営改善計画を策定し、令和4年度より5年間かけて経営改善の改善策に着手している。
- ・経営状態に関しては、今後は学園のみならず、「武蔵野栄養専門学校」としての状況の公開を検討していきたい。

基準 9 法令等の遵守

【自己評価結果】

	評価項目	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
9-32-1	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	④	3	2	1
9-33-1	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	③	2	1
9-34-1	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	④	3	2	1
9-34-2	自己評価結果を公表しているか	④	3	2	1
9-34-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	④	3	2	1
9-34-4	学校関係者評価結果を公表しているか	④	3	2	1
9-35-1	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	④	3	2	1

学校関係者評価委員会からのご意見等

適切に運用されている。

改善策

- ・個人情報についての重要性を十分に認識し、教職員全員の共通理解の下、各種情報の保護を図っていくことが重要である。

基準 10 社会貢献・地域貢献

【自己評価結果】

	評価項目	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
10-36-1	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
10-36-2	国際交流に取り組んでいるか	4	3	②	1
10-37-1	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っている	4	③	2	1

学校関係者評価委員会からのご意見等

コロナ禍で制限のある中、できる範囲の活動はされていると感じた。

改善策

- ・社会貢献・地域貢献は、コロナ禍に伴い自粛していたが、令和4年度は活動依頼があり、協力する予定である。これらの活動は、地域や社会との交流を深めることができると共に、コミュニケーション能力の向上も期待できる為、今後の状況を見ながら協力していきたい。
- ・国際交流に関しては、国費留学生の受け入れを行っており、令和4年度に1名の受け入れを実施、令和5年度にも1名の受け入れを実施する予定である。